

第5・6学年 国語科学習指導案

令和2年2月6日(木)

5年児童…4名

6年児童…3名

授業者 清水 奈津紀

- 1、単元名 表現を工夫して書こう
- <5年> 「一まいの写真から」 (光村図書5年)
- <6年> 「忘れられない言葉」 (光村図書6年)

2、単元の目標

<共通>

○書きたい題材を決め、学習の進め方に沿って書こうとする。 【関心・意欲・態度】

○書いたものを読み合い、表現の工夫に着目して助言し合うことができる。 【書くこと カ】

○文章の構成や様式を理解することができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(キ)】

<5年>

○表現の効果について確かめ、自分の表したい内容に合った表現を選ぶことができる。

【書くこと オ】

<6年>

○自分の経験と意見や感想を書き分けたり、目的に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることができる。 【書くこと ウ】

単元の評価規準

<5年>

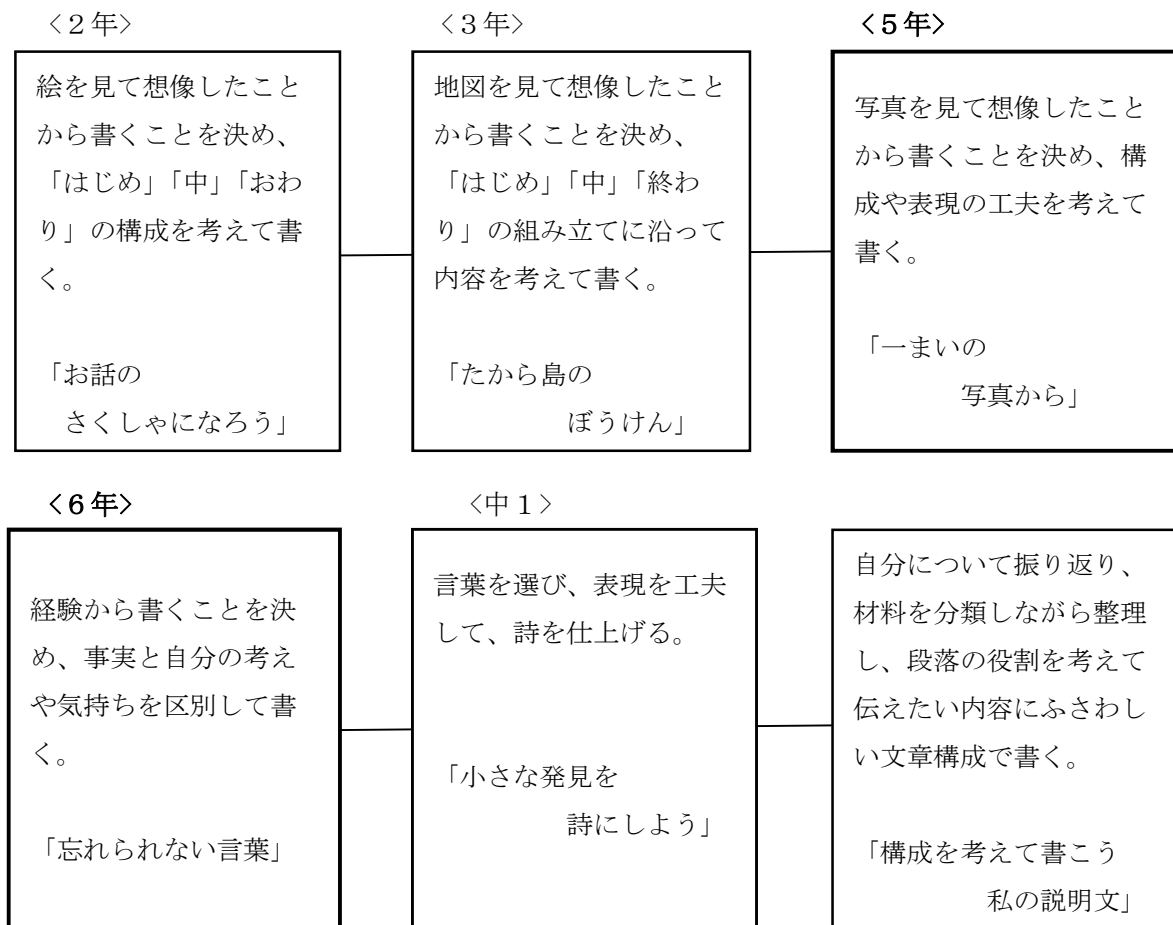
| 国語科への関心・意欲・態度 | 書く能力 | 言語についての知識・理解・技能 |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 写真を見て書きたい題材を決めて、想像したことから物語を書こうとしている。 学習課題を意識し、学習の進め方に沿って学習を進めようとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 表現の効果について確かめ、情景描写を用いながら、人物の言動や場面の様子を書いている。 互いに書いた物語を読み合い、表現の工夫に着目し、よさや改善点を伝え合っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 物語の構成を理解している。 |

<6年>

| 国語科への関心・意欲・態度 | 書く能力 | 言語についての知識・理解・技能 |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 自分の経験を見つめ直し、書きたい題材を決めて、随筆を書こうとしている。 学習課題を意識し、学習の進め方に沿って学習を進めようとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の経験と意見や感想を書き分けたり、目的に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしている。 互いに書いた随筆を読み合い、表現の工夫に着目し、よさや改善点を伝え合っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 随筆という文章様式を理解している。 |

3、学習の基盤

(1) 教材について



本単元は、5・6年生共に書くことを主とした学習である。同一の領域で、単元名を「表現を工夫して書こう」と統一したことにより、学習の類似点を生かした単元を構成することができる。5年生は想像したことから物語を書く、6年生は自分の経験から随筆を書くという学習であるため、類似点だけでなく学年の発達段階に応じた相違点に配慮して単元を構成することもできる。5年生と6年生の類似点や相違点を共有して学習することで、自分の学年の学習課題に対する意識を高めることや、異学年への助言や意見交流の活性化を図ることもできる。

5年生は、本単元が3度目の物語作りの学習となる。2年生では、「はじめ」と「おわり」に決まった絵が提示されており、主に「中」の部分の出来事を想像して物語を書く学習をしている。3年生では、提示された1枚の地図から「はじめ」「中」「おわり」の大まかな設定に沿った内容を考え、物語を書く学習をしている。

本単元は、7枚の写真の中から自分で選択した1枚の写真を基にして、物語の筋道、内容、表現などを工夫しながら、想像した出来事を3つあるいは4つのまとまりの構成で書き上げていく学習である。2年生からの系統を示すことで、たった1枚の写真からたくさんのことを想像し、物語を書き上げたという大きな達成感を味わうことができる。

物語を想像する材料が2・3年生での学習の絵から、5年生では写真に変わったことで、より鮮明な情景を捉えることができるため、写真の様子を的確に表現する力が必要となる。一方、「一まいの写真から」得られる情報は限られるため、想像したことを読み手に具体的に伝えるためにも情景描写を生かして書く必要性やよさを感じながら学習することができる。子どもが想像して考える部分が多くなったことで、1枚の写真から想像を広げ、考えたことを思いのままに表現できることも魅力である。子どもがこれまでの読書体験や生活の中で体験した出来事や自分自身の心情なども生かして書くことができるため、同じ写真から様々な物語が生まれるおもしろさも感じながら学習を進めていくこともできる。

本単元は、小学校の物語作りの総仕上げの単元という位置づけともなる。5年生で学習してきた物語教材の魅力的な表現や構成を生かして書き、自分で工夫して物語を書くことができたという満足感や工夫するよさを実感することができるようにしたい。

6年生は、本単元が「書くこと」の学習のまとめとなる学習である。6年間で学習してきた説明文や物語文などの表現を生かして書くことができ、6年間の学習の積み重ねを感じたり、よりよい表現を追究して学びを深めたりすることができる。随筆は、自分が主役の文章であるため、自分とじっくり向き合い、自分のことを自分の言葉で表現していくことが、よい作品を書き上げたいという思いを高めることにつながっていく。さらに、「忘れられない言葉」について考えることを通して自分との対話を繰り返し、小学校生活を振り返ったり、自分の成長や小学校卒業・中学校進学を自覚できたりするよさもある。自分自身が題材となっているため、読み手が筆者の経験や思いを的確に捉えることができる文章を書く力が必要となる。そのために、事実と意見の書き分けや出来事の描写を工夫して書くことの必要性やよさを感じながら学習することが大切になってくる。

本単元は、随筆との出会いの学習ともなる。自分が今までに出会った言葉から選んだ特別な言葉との出会いや思いを表現する学習で、中学校1年生の「小さな発見を詩にしよう」「構成を考えて書こう 私の説明文」の学習へとつながっていく。随筆は、中学校以降で度々扱われる学習であるということ意識することで、学ぶ必要感や新たな学習への期待感を持ちながら意欲的に学習する姿が期待される。

(2) 子どもについて

個人情報保護のため省略

(3) 指導について

○「書くこと」の力を高める

・付箋の活用

物語及び随筆の構成や内容を考えたり、修正したりする際に付箋を活用する。単元の2時間目では、5年生は「一まいの写真から」分かることや想像したこと、6年生は、「忘れられない言葉」についての経験や思いを付箋に書き出していく。付箋を活用することで、書き出した材料の中から必要な情報を選んだり、構成を考える際に選んだ情報を並べ替えたりしやすくする。また、3時間目で、付箋が貼ってある構成表を見ながら文章を書いていったり、4・5時間目で、互いに書いた物語や随筆の表現の工夫についてのよさや改善点を書き込んでいったりするなど、単元

を通して、付箋をよりよい作品を仕上げしていくためのツールとして活用していきたい。

・表現の工夫の観点

5年生は、情景描写を用いて物語を書く学習がはじめてであるため、子どもの難しそうだな、書けるかなという不安を軽減させるために、まずは、教科書に載っている表現の工夫についての観点の中から1つでも用いていけばよいということを伝える。また、多様な表現の工夫を取り入れた物語作りに励んでほしいという思いをもちながら、表現の工夫の観点を2つ以上用いるとよりよい物語へと発展していくことを子どもの実態にあわせて助言していく。

6年生は、はじめて随筆を書く学習となるため、忘れられない言葉との出会い（事実）と忘れられない言葉への思い（考え）を区別して書くことを大切に指導する。また、「書くこと」の学習の総まとめとなる学習でもあるため、これまでに学習してきた表現の工夫も取り入れて書くことを助言していく。

物語は、原稿用紙2枚から3枚、随筆は、原稿用紙1枚半から2枚程度と分量の目安を示すことで、伝えたい内容に応じて表現を工夫し、詳しく書いたり簡単に書いたりする必要性をもたせながら取り組ませたい。5年生・6年生共に完成作品のイメージをもちながら、書くことへの抵抗感の軽減を図ることで、より表現の工夫がされた物語・随筆の完成を目指していきたい。

・書く意欲を高める

5・6年生ともに語彙量に大きな差があるため、書く力にも個人差がある。そのため、書く時間や表現の仕方にも差が生じることが予想される。既習内容の復習や友達との読み合いなどの時間を効果的に取り入れ、子どものつまづきを軽減し、表現してみたいという思いをもたせることを大切にしたい。個人の活動だけでなく、困ったときには友達に質問したり、互いに助言し合ったりしながら学習を進めていくことがポイントとなる。

また、両学年共に学習を重ねていくにつれ、自分の書いた文章がよりよいものになっていくという満足感を味わってほしい。5年生には、情景描写を用いたことで物語がよりよくなったことを、6年生には、書き進めていくにつれて自分との対話が深まり、内容も深まっていることに気付かせたい。そのために、はじめに自分が書いた物語・随筆と完成した物語・随筆を見比べることができるように、書いたことを消して書き直すのではなく、付箋に修正した表現を書いて原稿用紙に貼って残すよう指導する。

・事前学習

5年生にとって情景描写を用いて物語を書く学習は初めてである。そのため、本単元で情景描写を用いて書くことに難しさを感じる子どもがいることが予想される。そこで単元の学習に入る前に簡単な練習を取り入れ、表現を工夫するとはどういうことなのか、工夫するとどんなよさがあるのかを感じられるようにする。

<活動1> 同じ情景を表した異なる2つの文を絵で表現し、どちらが絵に描きやすかったかを考える。この活動を通して、情景描写を用いて書いた文の方が想像しやすく、読み手にも伝わりやすいことを捉えさせたい。

<活動2> 写真の様子を表した文章を6年生に紹介し、どの文章が1番写真の様子を分かりやすく表現できているか決めてもらう。この活動を通して、具体的な情報を伝えるために情景描写を用いることのよさを感じさせたい。

また、6年生にとって随筆を書く学習ははじめてである。そのため、随筆を読み慣れることによって、随筆のよさやおもしろさを感じてられるよう「随筆の短編集」を取り上げて読書活動を進める。

<活動3> 随筆を読んだ感想を書き溜めていくことで、書かれている内容や優れた表現に気付くことができるようにしていく。この活動を通して、随筆の文章様式を捉えたり、表現の工夫を考えたりする際の手立てとしたい。

○複式のよさを生かす

・同時直接指導

本単元は、同単元異内容での学習であるため、ダイヤモンド型の学習の起点であり、単元全体の導入となる第1時が重要となる。これから始まる学習への期待感を高めるため、これまでの「書くこと」の系統性をおさえて、本単元での学習の意味づけを大事にしたい。この系統性をもとに、両学年の類似点と相違点を確認する活動を通して、子ども達と単元を貫く学習課題をつかっていく。

・同時間接指導

同時間接指導の中で、子ども達が主体的に学習に取り組み、対話的で深い学び合いを進めることができるように、教科書にある「活動の流れ」を活用した単元の見通しを掲示しておく。これにより、毎時間の活動の大体が分かり、ガイド役を中心とした毎時間のガイド学習も進めやすくなる。

・同学年交流と異学年交流

書いたものを読み、表現について助言し合う活動では、同学年・異学年間での交流の場を設定する。互いの学習の成果を認め合い、考え方や表現の仕方が広がるような助言をし合う時間として活用したい。

<同学年交流>

同学年の作品を読み合うことで、5年生には、同じ写真から様々な物語が想像できたり、同じ意味でも異なる言葉で表現できたりするという、多様な考え方や表現の仕方に気付く機会としたい。6年生にとっては、友だちの経験や思いに触れることで、再度自分の経験や考えについて見つめ直す時間として活用したい。

<異学年交流>

6年生にとっては、既習内容を踏まえたアドバイスをする時間としても捉えることができるため、上学年としての責任感と有用感をもって5年生と交流する姿を期待したい。5年生にとっては、次年度の学習に触れることになるため、次年度の学習への展望をもつという意味合いを大事にしたい。

○本時の学習

・ダイヤモンド型を軸としたガイド学習

本時は、導入・まとめで同時直接指導を行う。導入では、本時の学習の流れを提示し、1時間の見通しをもたせる。また、本時のめあてと話し合いの観点を確認することで、異学年が一緒に学習する意識を高めたり、互いの学習の類似点・相違点を考えたりしながら学習が進められるようにする。また、表現の工夫も一緒に確認することで、自分の学年の課題を意識したり、異学年の学習内容を取り入れたりしながら学習することも期待できる。

振り返りでは、めあてに対する振り返りと次時の学習活動をガイド役の子どもが伝え合う。めあてに対してできたことや分かったことを伝えることで、自分の作品へ生かせる表現の工夫に気づき、作品がさらによくそうだという期待感を高めたい。

展開は同時間接指導となる。子ども達の様子を観察し、学び方のよさや伝え合う際の改善点を見つける。表現の工夫について着目した伝え合いができていない場合や困っている様子が見られる際には、本時のめあてに立ち返ることを指導する。しかし、できるだけ子ども達に任せる時間としたい。

・対話的で深い学び合い

子ども達が学習の課題に向かって主体的に学習を進めることができるよう、伝え合いの観点を提示する。

伝え合う観点は、①よさ（〇〇がよく伝わってきた）②アドバイス（〇〇ってどういうこと？・〇〇が分かりづらいな・〇〇についてもっと知りたいな、だから…）を示す。観点を示すことで、表現の工夫に着目して話し合い、表現を工夫することでどんなよさがあるのか考えることができるようにする。付箋には、伝わってきたこと・分かりにくいことを記入させ、伝え合いの際に「どの表現から」や、だから…に続く「具体的な改善方法」を伝え合うことを指導し、付箋に書いた内容を読み合うのではなく、自分の考えを具体的に表現することを大切に

する。
5・6年生共に「どの表現からどんなこと（情景・出会い・思い）が伝わってきたのか」を伝え合うことで、書き手と読み手の双方に表現を工夫するよさを捉えさせ、表現したいことが読み手に伝わった満足感やもっと書きたいという意欲を高めたい。

4、単元の指導計画 5年生：全6時間（本時 第4時） 6年生：全6時間（本時 第4時）

| 時 | 評価規準 | ○学習活動と・教師の支援 (5年生) | ○学習活動と・教師の支援 (6年生) | 評価規準 | 時 |
|---|---|--|---|---|---|
| 1 | 関物語の完成までの学習の見通しを持ち、物語作りへの意欲を高めている。 (発言・態度) | <p>○「物語」の特徴を確認し、単元の学習課題を立て、今後の学習の見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語作りを楽しみにする気持ちや満足する作品を書き上げたいという気持ちを高めることができるよう、学習の系統を示す。 ・物語の特徴を確認するために、これまでに読んだ物語や既習の物語文の学習について話し合う場を設定する。 ・物語の特徴を6年生と共有することで物語と随筆の類似点や相違点を意識できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>作者（作り話） 構成 登場人物・主人公 時 場所 出来事 表現（心情の変化・言動・情景）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの学習を意識して学習が進められるよう、つくった学習課題を6年生と共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習課題 「<u>一まいの写真</u>」から<u>想</u> <u>像</u>を広げ、<u>情景</u>が伝わるように表現を工夫して<u>物語</u>を書こう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の見通しをもち、主体的に学習が進められるように単元の学習の流れを確認する。 | <p>○「随筆」の特徴を知り、単元の学習課題を立て、今後の学習の見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな学習への期待感や学ぶ必要感を持ちながら意欲的に学習できるように、学習の系統を示す。 ・随筆の特徴を捉えるために、事前学習で書き溜めたカードの内容と、教科書の随筆（「明日の私は新しい」）に書かれている内容を子どもと一緒に確認する。 ・随筆の特徴を5年生と共有することで随筆と物語の類似点や相違点を意識できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>筆者（本当の話） 構成 人物・主人公は自分 出会い（時・場所・出来事 言動・情景） 思い（心情の変化）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの学習を意識して学習が進められるよう、つくった学習課題を5年生と共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習課題 <u>忘れられない言葉</u>から6年間で<u>振り返り</u>、<u>出会い</u>や<u>思い</u>が伝わるように表現を工夫して<u>随筆</u>を書こう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の見通しをもち、主体的に学習が進められるように単元の学習の流れを確認する。 | 関随筆完成までの学習の見通しを持ち、随筆を書く意欲を高めている。 (発言・態度) | 1 |
| 2 | 言物語の構成を理解している。 (発言・構成表) | <p>○7枚の写真から1枚の写真を選び、写真から分かることと想像したことを付箋に書き、物語の構成とあらすじを考える。</p> | <p>○「忘れられない言葉」について付箋に書き、構成を考える。</p> | 言随筆という文章様式を理解している。 (発言・構成表) | 2 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・同時直接指導でめあてと学習の流れを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> 1、写真を選ぶ 2、付箋に書く(写真から分かること・想像したこと) 3、構成表に貼る 4、大まかな内容を考える </div> <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容を具体的にイメージできるように、付箋や構成表を提示しながら説明する。 ・想像を広げることが難しい場合には、構成や設定について個別で確認する。 ・自分の想像した物語に合った構成について考えることができるようにするため、直接指導に入る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><構成></p> <ol style="list-style-type: none"> ①きっかけ-事件-事件の解決-結末 ②始まり-事件-人間関係の変化-結末 ③現在-過去-現在 </div> | <ul style="list-style-type: none"> ・同時直接指導でめあてと学習の流れを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> 1、構成を確認する 2、付箋に書く(出会い・思い) 3、構成表に貼る </div> <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容を具体的にイメージできるように、付箋や構成表を提示しながら説明する。 ・初めて学習する随筆の構成を子ども達に理解させるために、1で6年生への直接指導に入る。 ・前時で活用したカードと、教科書の随筆(「明日の私は新しい」)を使って、随筆について確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><構成></p> <p>初め(忘れられない言葉) 中(言葉との出会い) 終わり(思い)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・6年間を幅広く振り返ることができるように、複数の「忘れられない言葉」について付箋に書くことを伝える。 | | |
| 3 | <p>書 構成に沿って物語を書いている。 (構成表・原稿用紙)</p> | <p>○表現の工夫を確認し、物語を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの言葉で表現について確認できるようにするために教科書の拡大コピーや表現を工夫する練習で書き溜めたカードを活用する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><表現の工夫></p> <ol style="list-style-type: none"> ①書き出し ②登場人物の行動や会話、場面の様子を詳しく書く。 ③たとえや、様子を表す言葉を工夫する。 ④においや色、音などが伝わるように書く。 ⑤同じ文末のくり返しにならないようにする。 </div> | <p>○表現の工夫を確認し、「忘れられない言葉」を1つ選んで随筆を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの言葉で表現について確認できるようにするために教科書の拡大コピーや読書の際に書き溜めたカードを活用する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><表現の工夫></p> <ol style="list-style-type: none"> ①書き出し ②出会い(事実)と思い(考え)を区別して書く。 ③詳しく書いたり簡単に書いたりする。 </div> | <p>書 随筆の構成に沿って随筆を書いている。 (構成・原稿用紙)</p> | 3 |

| | | | | | |
|---|---|--|--|--|---|
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ・6年間で出会った特別な言葉を選ぶことや、出会い・思いを表現することが随筆の大切なポイントだということを押さえるために、直接指導に入る。 | | |
| ④ | <p>書いた物語を読み合い、表現の工夫に着目してよさや改善点を伝え合っている。(発言・付箋)</p> | <p>○友達の物語を読み、表現の工夫について助言し合い、見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の工夫について意見交換ができるよう表現の工夫と伝え合いの観点を確認する。 ・想像した内容について話し合うことが難しい場合には、写真から分かることの表現について考えさせる。 ・意見交流を参考にして物語を見直すことができるよう、付箋にアドバイスを残すようにする。 | <p>○友達の随筆を読み、表現の工夫について助言し合い、見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現工夫について意見交換ができるように表現の工夫と伝え合いの観点を確認する。 ・出会いや思いについて考えを深めることができるよう、構成表をもとに話し合い、付箋にメモするようにする。 ・意見交流を参考にして随筆を見直すことができるよう、付箋にアドバイスを残すようにする。 | <p>書いた随筆を読み合い、表現の工夫に着目してよさや改善点を伝え合っている。(発言・付箋)</p> | ④ |
| 5 | <p>書表現の工夫の効果について確かめ、情景描写を用いながら、人物の言動や場面の様子を書いている。(発言・ノート)</p> | <p>○6年生と書いた文章を読み合い、表現の工夫について助言し、修正する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な考え方や表現の仕方に気付く、表現の効果について考えることができるよう、6年生と読み合う時間を設定する。 ・友達や6年生との意見交流を参考にして物語を修正し、物語を仕上げる時間を設定する。 | <p>○5年生と書いた文章を読み合い、表現の工夫について助言し、修正する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な考え方や表現の仕方に気付いたり、より読み手に伝わりやすい表現について考えたりできるよう、5年生と読み合う時間を設定する。 ・友達や5年生との意見交流を参考にして随筆を修正し、随筆を仕上げる時間を設定する。 | <p>書自分の経験と意見や感想を書き分けたり、目的に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしている。(発言・ノート)</p> | 5 |
| 6 | <p>書互いに書いた物語を読み合い、表現の工夫に着目してよさを伝え合っている。(発言・感想カード)</p> | <p>○完成した物語を読み合い、表現のよさを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の工夫に着目して感想が述べられるよう、前時までの学習を確認し、助言し合った時と比べた感想も伝えられるように指導する。 ・表現の工夫の変化や学習の過程を評価し合えるように、完成した物語、初めて書いた物語、修正を加えた物語を準備しておく。 ・できるようになったことや課題を今後の学習に生かすために、学習課題に対しての振り返りをノートに書き、伝え合う。 | <p>○完成した随筆を読み合い、表現のよさを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の工夫に着目して感想が述べられるよう、前時までの学習を確認し、助言し合った時と比べた感想も伝えられるように指導する。 ・表現の工夫の変化や学習の過程を評価し合えるように、完成した随筆、初めて書いた随筆、修正を加えた随筆を準備しておく。 ・できるようになったことや課題を今後の学習に生かすために、学習課題に対しての振り返りをノートに書き、伝え合う。 | <p>書互いに書いた随筆を読み合い、表現の工夫に着目してよさを伝え合っている。(発言・感想カード)</p> | 6 |

5、本時の学習

(1) ねらい

5年：書いた物語を読み合い、表現の工夫に着目してよさや改善点を伝え合うことができる。

【書くこと】

6年：書いた随筆を読み合い、表現の工夫に着目してよさや改善点を伝え合うことができる。

【書くこと】

(2) 展開

| 支援(・)と評価(☆) | 学習活動(5年生) | 時間 | 形態 | 時間 | 学習活動(6年生) | 支援(・)と評価(☆) |
|--|--|----|----------------|----|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 子どもが本時の学習を確認できるように単元計画を掲示しておく。 子どもが主体的に学習できるようにするために、子どもとのやりとりを中心にめあてを確認する。 見直しの活動で自分の物語に合った表現の工夫について考えることができるよう、話し合った内容は付箋にメモして残すことを伝える。 友達や自分が書いた付箋をどのように活用するか、構成表や付箋を用いて説明する。 表現の工夫について伝え合いができるよう、表現の工夫と伝え合う観点を確認する。 伝え合う活動で自分の考えを具体的に表現させるために、付箋に書く内容と伝え方を指導する。 | <p>1、本時のめあてと活動内容を確認する。 ○前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>作品の表現の工夫について、よさやアドバイスを考え伝え合おう。</p> </div> <p>○本時の学習の流れと目安の時間を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><学習の流れと目安の時間> 読む→付箋 →伝え合い ペアで2回 (12時15分まで) →見直し (6年生と一緒に)</p> </div> <p>2、表現の工夫と伝え合う観点を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><伝え合いの観点> ① よさ ・○○がよく伝わってきた ② アドバイス ・○○ってどういうこと？ ・○○が分かりづらいな ・○○についてもっと知りたい</p> </div> | 7 | 同時 直接 指導 | 7 | <p>1、本時のめあてと活動内容を確認する。 ○前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>作品の表現の工夫について、よさやアドバイスを考え伝え合おう。</p> </div> <p>○本時の学習の流れと目安の時間を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><学習の流れと目安の時間> 読む→付箋 →伝え合い (12時15分まで) →見直し (5年生と一緒に)</p> </div> <p>2、表現の工夫と伝え合う観点を確認する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 子どもが本時の学習を確認できるように単元計画を掲示しておく。 子どもが主体的に学習できるようにするために、子どもとのやりとりを中心にめあてを確認する。 出会いや思いを伝える、表現の工夫について考えることができるよう、話し合った内容は付箋にメモして残すことを伝える。 友達や自分が書いた付箋をどのように活用するか、構成表や付箋を用いて説明する。 表現の工夫について伝え合いができるよう、表現の工夫と伝え合う観点を確認する。 伝え合う活動で自分の考えを具体的に表現させるために、付箋に書く内容と伝え方を指導する。 |

| | | | | | | | |
|---|---|----|----------------|----------------|----|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・表現の工夫の参考にできるように事前学習で書き溜めたカードを掲示する。 ・友達の想像したことについて考えることが難しい場合には、写真から分かることについて伝え合うよう声掛けする。 ・子どもの様子を観察し、めあてから逸れた伝え合いや停滞などが見られる際には、直接指導や声かけをする。 <p>☆書いた物語を読み合い、表現の工夫に着目してよさや改善点を伝え合っている。 (発言・付箋)</p> | <p>3、表現の工夫のよさや改善点について伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○物語を読んで気付いたよさやアドバイスを付箋に書く。 ○どの表現からどんな情景が伝わってきたのかよさを伝え合う。 ○さらに工夫できそうな表現や、他にも工夫できそうな表現について伝え合う。 ○友達のアドバイスを付箋にメモする。 ○友達や自分が書いた付箋は、構成表に貼る。 <p>4、友達との伝え合いを参考にして、自分の作品の表現の工夫について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話し合ったことや付箋に書いた内容を参考にして、取り入れたり、修正したりする表現の工夫について付箋や構成表に記入する。 | 28 | 同時 間接 指導 | 同時 間接 指導 | 28 | <p>3、表現の工夫のよさや改善点について伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○随筆を読んで気付いたよさやアドバイスを付箋に書く。 ○どの表現からどんな出会い・思いが伝わってきたのか、よさを伝え合う。 ○さらに工夫できそうな表現や、他にも工夫できそうな表現について伝え合う。 ○友達のアドバイスを付箋にメモする。 ○友達や自分が書いた付箋は、構成表に貼る。 <p>4、友達との伝え合いを参考にして、取り入れる表現の工夫について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話し合ったことや付箋に書いた内容を参考にして、取り入れたり、修正したりする表現の工夫について付箋や構成表に記入する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・表現の工夫の参考にできるように事前学習で書き溜めたカードを活用することを伝える。 ・子どもの様子を観察し、めあてから逸れた伝え合いや停滞などが見られる際には、直接指導や声かけをする。 <p>☆書いた随筆を読み合い、表現の工夫に着目してよさや改善点を伝え合っている。 (発言・付箋)</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・今後の学習でよりよい表現の効果について考えることができるよう、表現の工夫の番号や印を記入させる。 | <p>5、本時の振り返りと次時の学習内容を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ガイド役の子どもがめあてに対しての振り返りと次時の学習内容を伝える。 | 5 | 同時 直接 指導 | 同時 直接 指導 | 5 | <p>5、本時の振り返りと次時の学習内容を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ガイド役の子どもがめあてに対しての振り返りと次時の学習内容を伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後の学習で子どもたちが主体的に学習できるように、よい学び方、改善点を伝える。 |

(3) 評価

<5年>

| 十分満足できる | おおむね満足できる | 支援を必要とする場合の手立て |
|---------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 書いた物語を読み合い、表現の工夫に着目し、よさや改善方法を伝え合っている。 | 書いた物語を読み合い、表現の工夫に着目してよさや改善点を伝え合っている。 | 表現の工夫を確認し、一緒に物語を読んで、どんな情景が伝わってくるか考える。 |

<6年>

| 十分満足できる | おおむね満足できる | 支援を必要とする場合の手立て |
|--|---------------------------------------|--|
| 書いた随筆を読み合い、表現の工夫に着目して、よさや改善方法を伝え合っている。 | 書いた随筆を読み合い、表現の工夫に着目して、よさや改善点を伝え合っている。 | 表現の工夫を確認し、一緒に随筆を読んで、どんな経験や思いが伝わってくるか考える。 |

(4) 視点

- ・ 伝え合いの観点を示して伝え合いを行ったことは、本時のねらいを達成するために有効であったか。
- ・ 導入における同時直接指導の流し方は、同時間接指導での対話的で深い学び合いを進めるために有効であったか。